



苦工同窓会支部 関東六華会

会報 第22号 2025.4.20

発行責任者

篠原 和行

編集委員

大澤 哲司 福澤 光男

**” 会員が集まりやすい同窓会 “
を目指して！
「関東六華会」会長 篠原 和行（土 s43）**

苦工同窓会支部関東六華会会員の皆様におかれましては、日頃から同窓会活動に深いご理解とご支援を頂き、誠に有難うございます。感謝申し上げます。

私、篠原は、令和6年度の総会での役員改選において、石堂前会長から引き継いで会長に選任され就任いたしました。

何分にも力量不足ではありますが、改選された役員の皆様のご協力を得ながら、今まで築いてきた「関東六華会の伝統と意思」を引き継ぎ、更なる前進を目指して幹事一丸となって頑張っていく所存でございますので、何卒、今後ともご支援とご協力を承ります様、宜しく願い申し上げます。

昨年度の関東六華会活動としましては、四役会（年4回）で年間行事等の運営に関する原案を企画・立案し、その原案を本会最高の意思決定機関として位置付けている幹事会（年4回）で協議し賛成多数の原則を基に決定して進めております。

令和6年度に実施した「総会・懇親会」「親睦ゴルフ大会」「散策の会」「忘年会」の行事で、会員相互の親睦を深めたことをご報告いたします。

今年度も昨年度と同様の行事を企画し実行をしようと考えていますが、会の運営は少子高齢化ならぬ少若高齢化の同窓会となってきていることから「総会・懇親会」については、若い後輩が参加し易い場にする新企画として、アトラクションに苦工の卒業生で吉本興業に所属しているお笑い芸人「スクランブル」の出演等を準備し、大いに盛り上げて必ず皆様に満足して頂けると思っておりますので、今年度の「総会・懇親会」に是非とも出席して頂けます様、お願い申し上げます。

関東六華会の活動は社会環境の変化や昭和47年（1972年）の卒業者を境に関東への就職者の激減、会員の高齢化等で会員減少問題を抱え、現在の登録会員数は640名程度ですが、毎年10名前後の減少が続いており残念な状態となっておりますので、同級生や先輩・後輩のお知り合いがございましたら、是非ともお声かけをして頂きたくお願い申し上げます。

関東六華会のホームページについてですが、平成26年に専門業者により開設し運用してまいりましたが昨今の技術の向上等に伴いIT関連技術に秀でた会員の尽力で独自の新ホームページを立ち上げ令和5年3月より運用を開始しております。

関東六華会の活動状況や会員のみなさまからの投稿記事を掲載しております。皆様にも本ホームページにアクセスしていただき感想などをいただければ幸いです。これからも読んでいただける記事の掲載、使いやすいホームページにすべく改善を続けていきますので宜しくお願いいたします。

最後になりますが、当会のスローガンである「母校の誇りと同窓生の絆」を信条とし「明るく楽しく、人が集まり、助け合いのできる同窓会」を目指して同窓会活動を推進してまいります。

新会長のプロフィール

- ・苦小牧和光中学校出身
- ・土木科 S43年卒
- ・アイスホッケー部に所属、ポジションはゴールキーパー
- ・卒業後、製鐵会社に入社
- ・1990年頃、関東六華会の前身である苦工同窓会千葉支部の活動に参加し、現在に至る。
- ・趣味：ウォーキング、四国霊場 88 か所歩き遍路、古希ソフトボール、ゴルフ、囲碁



幹事会風景



四役会風景

関東六華会新年挨拶

苫工同窓会本部 会長 渡辺 健治 (機 s44)

新春を迎え、関東六華会篠原和行会長をはじめとする会員皆様におかれましては輝かしい一年のスタートを切られていることと存じます。

苫工同窓会本部の活動に対して常日頃からのご支援とご協力に感謝申し上げます。

昨年 7 月定例総会にて田中稔会長の後任として会長職をお受けして、はや 6 ヶ月を過ぎようとしております。本年も変わらず苫工同窓会本部の運営にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年は巳年であります。巳年は成長と変化の象徴とされ皆様が新たな挑戦に取り組み、その努力が実を結ぶことを心より願っております。

私自身も、昭和 44 年に機械科を卒業し、野球部に所属していた頃の思い出が今でも鮮明に残っています。

野球を通して学んだチームワークの重要性や挑戦する大切さが心の支えとなっております。



本校は、創立以来 28,000 名余りの卒業生を輩出し、多くの方々が全国各地で活躍しています。

同窓会本部の役割はますます重要であり身の引き締まる思いであります。さて、同窓会本部の運営において現在では 28,000 人、確認される会員数 17,000 人その内所在の確認出来る会員数 14,000 人であり、最近の入会者数の減少や高齢化による課題に対応するため、支部間ネットワークの構築や若い世代との交流会を図り、総務・財務・企画部会を設置し、組織の活性化に努めてまいります。

おわりに、関東六華会の信条「母校の誇りと同窓会の絆」「明るく楽しく、人が集まり、助け合いのできる同窓会」の基、皆様の活動に感謝し、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和 6 年度 苫工同窓会支部 関東六華会 総会・懇親会 6 月 22 日 (銀座ライオン 7 丁目店 6 階銀座クラシックホール)

関東六華会 役員による活動報告



幹事: 松崎 (土 s43)



幹事長: 篠原 (土 s43)



会長(議長): 石堂 (土 s39)



監査役: 伊藤捷 (電 s38)

来賓のご挨拶

懇親会・乾杯の音頭



三石本部副会長 (電 s49)



田中本部会長 (土 s33)



笹村 苫小牧市東京事務所所長



川上顧問 (工化 s28)



総会資料を見入る 会員の皆様



歓談する皆様

昭和39年卒業以前・昭和43年
卒業および来賓



上段左から 中本(電s39) 山野(機s39) 佐々木 孝(土s39) 藤谷(土s39) 駒米(電s36) 伊藤(電s38:監査役) 櫻井(通信s38) 吉田(電s39)
中段左から 牛坂 苫工専 樽前会関東支部 支部長 岡山(機s35) 山崎(工化s35) 早坂(土s35) 阿部(機s36) 武田(電s35) 及川(電s36)
大竹 苫工専 樽前会関東支部 前会長 林 苫東高白三会東京支部 事務局長
下段左から 坂本(電s31) 笹村 苫小牧市東京事務所 所長 川上(工化s28) 篠原会長(土s43) 石堂(土s39) 田中本部長(土s33)
遠藤 苫西高 関東 樽前会 会長 三石本部副会長(電s49)

昭和37年・昭和40年
卒業以後



上段左から 福澤(機s45:副幹事長) 首藤(電s43) 村田(電s40) 大澤(電s43:幹事) 日高(機s59) 田中(建s43) 松山(電子s56) 三浦(機s60:幹事)
中市(建h03)
中段左から 松崎(土s43:幹事) 菅原(機s45) 小野寺(電s45:幹事長) 松平(機s43) 鈴木(機s43) 佐々木 明(機s45:幹事) 南部(建s41)
千葉(建s44:幹事)
下段左から 林(土s42) ニッ屋(機s42) 橋本 雅(電子s43:幹事) 野本(機s43:副会長) 篠原会長(土s43) 藤井(電子s43) 三橋(工化s41:会計)
神馬(電s37)

関東六華会 新役員の皆様



新幹事:千葉(建s44)



新副会長:野本(機s43)



新会長:篠原(土s43)



新幹事長:小野寺(電s45)



新幹事:佐々木(機s45)



新幹事:三上(土s49)

“活躍する苦工同窓生”

画伯 蒲原勝美さん(電 s38)

快晴の2月13日(木)、蒲原 勝美さん(電気s38)が会長を務める、第57回等迦展(国立新美術館)へ行ってきました。



「等迦展」鑑賞も10年になり、蒲原さんが会長になって3年目、その間に開催した個展を含め、蒲原さんの作品に接してきました。「等迦会」は、大正11年(1922年)、東京美術学校(現東京芸術大学)西洋画科の

卒業生が、大正15年(1926年)に「等迦会」と命名し、東京上野松坂屋に於いて、第1回等迦展が開催されました。

戦中は休会をよぎなくされたものの、昭和40年(1965年)に再興された。今までのグループ展から発展し、新進画家に発表



力作「アヨロ海岸」の前で蒲原画伯

の場を提供する公募美術団体として昭和53年(1978年)第11回等迦展は公募1回展として東京都美術館にて開催され、記念すべき公募第1回展として充実した展覧会となったようです。

蒲原さんは設立当初の大先輩の夢と意思を継いで歴史ある「等迦会」事務局長を経て、会長に就任し重責を果たしております。

今回は、(集合写真左から)山崎さん(工化s35)、坂本元会長(電気s31:蒲原さんが勤めていた会社雪印の先輩)、小野寺幹事長(電気s45)、石堂前会長(土木s39)、私、駒米、吉田前副会長(電気s39)、

雨野さん(電気s34)の「関東六華会」メンバー7名で行きました。



この日は、蒲原さんが勤めていた会社の上司先輩が数人来られており、坂本さんと蒲原さんは対応でお忙しくされておりました。これからの蒲原さんのご活躍を祈念しております。

今回の作品「アヨロ海岸」は、蒲原さんの故郷、白老町虎杖浜にある白老のビューポイントのひとつ。朝日、夕日が見え、荒々しく削られた岩と、太平洋の波が作り出す景色は、独特のもの。季節に応じて変わる海岸の表情は、白老の奥深さを物語っているかのようです。

近傍では珍しく、護岸などの人工物がほとんどない砂浜。ポンアヨロ川の河口となっており、アヨロ鼻灯台やカムイエカシチャシ、ポンアヨロ遺跡なども近くに存在し、アイヌ文化の遺跡が数多く発見されている文化的にも貴重な地域で、周辺にはアフルパロ(あの世への入り口)などがあります。

2025年2月19日(駒米顧問記)

・関東六華会会員登録者数(令和7年3月末)

	635 名
前年度からの増減	23 名減
増減の内訳	
物故者	9 名
退会者	7 名
現住所不明者	10 名
新規加入者	3 名

その先の
明るい未来に向かって



どこまでも 誰よりも
速く正確に測る

「はかる」をキーワードに事業を展開

建設計測技術・機器の開発

地図に関連する情報システムの開発

測量・計量・設計製図用品の販売

NETrise

有限会社ネットライズ 取締役相談役

二ツ屋 清一 (機械42年卒)

散策「八王子千人同心と新選組」に参加して 熊倉光男（電 s43）

今回は、「八王子千人同心と新選組」のテーマで、晴天で散策日和に恵まれた 11 月 17 日（日）、京王線高幡不動駅の改札口に 16 名が集合しました。残念ながら篠原会長が体調不良で欠席でしたので、野本副会長のご挨拶の後、櫻井さんから今日の散策予定の説明がありました。盛り沢山の内容で期待が持てます。なお今回は櫻井さんの息子さんがカメラマンとして特別参加されました。早速、徒歩 5 分で「高幡不動尊」に着きました。参道は 11 月中旬とは思えない暖かさで、コートを脱いで歩く人もいました。七五三参りの家族も多く、出店も出ており賑やかな参道を通して「大日堂」にお参りをしました。「大日堂」は「鳴り龍」と呼ばれ、龍の絵が描かれた天井の下で手を打つと「ジーン」と響く事が知られています。手を打って予想以上に大きな鳴き龍を神妙に聞いていました。裏手には近藤勇と土方歳三の位牌がありました。また、裏の山は新選組が紅白に分かれて戦い、腕を磨いた場所でもあります。

次の目的地、「土方歳三記念館」には福澤さんと菅原さんに運転をお願いし、レンタカー 2 台に分乗し向かいました。近くファミリーレストランに駐車し、土方歳三記念館に入ると、日野道場による「天然理心流」の演武



を見学する事が出来ました。有段者による演武は迫力があり緊張して拝見しました。最後に真剣による藁の試し切りがあり、見事な切れ味に驚き

ました。貴重な体験でしたが、これも櫻井さんの事前準備の賜物であり、大変感謝しています。

記念館の開館時間まで空き時間があつたので、ファミリーレストランで昼食後、再び土方歳三記念館に入り、歳三が五稜郭で戦死した時、帯同していた「愛刀・和泉

守兼定」を拝見しました。戦場での激しい戦の後が刃先に残っているとの事でした。

次に日野市指定有形文化財である「日野宿本陣」を見学しました。日野宿本陣は佐藤彦五郎の屋敷で、昔は天然理心流の道場もあったそうです。また、新選組が着ていた鮮やかな青色の羽織も展示していました。入口には「明治天皇日野御小休所跡及建物附御五膳水」と書かれた立派な記念碑が建っていました。

次に歩いて「佐藤彦五郎新選組資料館」を訪ねました。佐藤彦五郎は新選組の結成から、新選組の皆がいなくなった後までも長い間ずっと新選組を支援しました。

「日野宿本陣」から歩いて 5 分くらいの所に「井上源三郎資料館」がありました。源三郎の兄、井上松五郎は八王子千人同心組頭を務め、弘化 2 年に天然理心流免許を習得し、日野で近藤勇・井上源三郎・沖田総司・土方歳三等に天然理心流を教えました。天然理心流は「天地人の三理に基づき武術を修め、心は一誠を以て天地の公道を極めるに存す。即ち、忠・孝・仁・智・信・剛の七道を修るを本領と為す」との教えです。

最後に、レンタカーに分乗し調布市にある近藤勇の生家と墓がある龍源寺に向かいました。近藤勇が生きた当時からある 2 本の大銀杏を通り、墓前に手を合わせて激動の人生に思いを馳せました。



後列：福澤（機 s45）、小野寺（電 s45）、菅原（機 s45）、田中（建 s43）、櫻井（通信 s38）、近藤勇像、石堂（土 s39）、伊藤（電 s38）、前列：岡山（機 s35）、野本（機 s43）、熊倉（電 s43）、吉田（電 s39）、三橋（工化 s41）、大澤（電 s43）、佐々木（機 s45）、山崎（工化 s35）

SANKO

管・消防施設・土木・建築工事

有限会社 三興エンジニアリング

代表取締役 鈴木 正夫 （機械 43 年卒）

〒373-0035 群馬県太田市藤久良町 48-49

TEL:0276-31-3499 E-mail:sankoeng035@ad.wakwak.com

近藤は「ひたすら君恩に報いよう、私心ではなく、公の気持ちで、その誠を尽くす」との武士道を実践した武士でした。日野市から調布市に移動しながら、新選組と天然理心流の深い関係を秋晴れの中で学び、最後に調布駅前の居酒屋で喉と疲れを癒し親睦を深めました。

今回の散策の準備や現地のガイドをして頂いた櫻井さん、一眼レフカメラを持参し同行、すべての写真を撮影してくれた櫻井さんの息子さん、レンタカーの運転をして頂いた福澤さん、菅原さん、大変お疲れ様でした。誠にありがとうございました。



「六華会 親睦ゴルフコンペ」開催しました

2019年の初開催から数えて第4回目(2020年、2021年の有志でのコンペは除く)となる六華会親睦ゴルフコンペを10月21日、南総ヒルズCCにおいて3組・12名で開催しました。



後列: 福澤(機s45)、菅原(機s45)、ニッ屋(機s42)、小野寺(電s45)、橋本(電子s43)、伊藤(電s38)、高橋(土s39)

前列: 大澤(電s43)、篠原(土s43)、三橋(工化s41)、南部(建s41)、熊倉(電s43)

朝方は北風も吹き初冬の寒さを感じながらも篠原会長の始球式で東コースよりスタートしました。

今回は6月の総会で新幹事長に就任した小野寺幹事長が初参加、幹事役としても大いに活躍されました。

寒さと強風のため皆が苦労しながらのコンペとなりましたが、結果はグロスで3桁(117)を叩いたものの、高ハンデ(43.2)



を獲得した南部忠広さん(建築s41年卒)が念願の初優勝を勝ち取りました。

2位には実力者の高橋孝幸さん(土木s39年卒)、3位には初参加の小野寺博美さん(電気s45年卒)が入りました。

最年長の伊藤捷憲さん(電気s38年卒)、スコア(115)はまずまずでしたが、ハンデ(31.2)に恵まれずにBMとなりました。しかしながら東コースの8番ではあわやバーディのOKパーをとるなど華麗なレフティでゴルフを楽しんでいたのが印象的でした。

本コンペは六華会の公式行事であるので、今年も六華会より補助金が提供され、参加者全員にキョロちゃんバッグをお渡ししました。

(記: 篠原・菅原・福澤)



前夜祭の様子



ちゃんこ
盛太
SEITA

町田市南成瀬 5-1-7 中島ビル
TEL042-785-4957
営業: 17:00~ 定休: 木

「人の言葉」

小野寺博美（電s45）

入社以降、社会人として長く様々なビジネスを経験し、客先・工場・会社の同僚など多数の人々とコミュニケーションを持った中で、私には特に印象に残った言葉があります。その一部をご紹介します。

その一つとして「元気なうちに美味しいものを食べなさい」これは私の友人が亡くなる前に言われた言葉です。人間死んでしまったらもう美味しいものは食べられないですね。

二つ目は「言葉にできない」です。これはありえない出来事に出会った時感じました。感動とかショックが大きすぎて言葉にできないことはよくあること。これは元オフコースの小田和正の歌詞にあります（オフコースとは小田和正のいた日本のバンド、作詞・作曲は主に小田和正がやっていた）。

三つ目は「あきらめずにやり通せば成功しかありえない」です。これは私のいた職場の上司に言われた言葉です。あるビジネスのプロジェクト進行中、打ち合わせなどで意見がぶつかり合うのはよくあることです。「おのれの信じたことが正しい」という信念で行動すること、「その信念を貫き通し、プロジェクトを成功させた」ことです。ただしその信念が間違いだったと気付いたときは変更・修正し見直すことも必要です。さらに上司の言葉で「考え方を換えれば、人生は180度変わる」との言葉による指導を受けたことが印象に残っています。

四つ目は「仕事は知識よりも体得（経験によって得られたもの）を重視する」これも上司の言葉でした。つまり「物

事は経験してみないとわからない」ということでしょう。言い換えれば「習うより慣れろ」です。

最後に「組織の現状維持は衰退を意味する」という言葉があります。（渋沢栄一などの言葉でもあります）このような組織の変化はときに失敗をすることもあります。

しかし失敗を恐れては何もできません。大事なのは常に何がベストなことを考えて進むことです。

このような五つの言葉を通じて、これからも関東六華会を発展させていきましょう。

同期会便り

(皆さまからの投稿をお待ちしています)

☆ 電気科43年卒クラス会 in 北海道&東京 ☆

去る2024.10.15日(火)札幌の小金井湯温泉「湯元小金湯」で電気科43年卒のクラス会を開催しました。

地元北海道12名、関東2名(大澤君・首藤)で計14名が参加し、この中には本部副会長(兼 札幌支部長)である内田君も含まれています。今回は 幹事役である土居 勉君が9月22日に突然亡くなるという訃報に接し、遺影と空御膳を用意した追悼クラス会となった。

我がクラス会はA及びBクラス合同で、卒業以来毎年



左から：酒井、首藤、柄沢、後藤、塩見、内田、永井、樫原、大澤、石原、千引、宇良田、新井山

苦工の誉 鈴木恵一さん逝く

“苦工の誉”である鈴木恵一さん(工化 S36 年)が令和 7 年 1 月 21 日に腎不全のため永眠されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

- ・スピードスケート男子 500m元世界記録保持者
- ・1966 年と 1970 年の 2 度世界記録をマーク
- ・1972 年冬季札幌五輪 選手団主将
- ・2010 年冬季バンクーバー五輪 日本選手団総監督

日々異なる20種類以上のおばんざい大皿料理をご用意！ 大人の隠れ家！

ふるさとの味 **道** (いほたる)

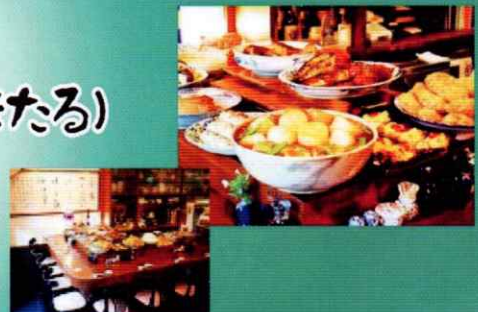
〒103-0014

東京都中央区日本橋蠣殻町 2-5-4

パークハイツ日本橋蠣殻町 2F

地鉄半蔵門線水天宫前 5 番出口から1分

TEL : 03-5652-5988



定休日：日曜日／連休になる祭日

営業時間：昼 11:00～14:00 夜 17:00～23:30

(北海道)開催を続けています。これははまとも役である檜原君、内田君等の尽力で連続開催を続けており、感謝申し上げたい。

関東地区の電気科43年卒クラス会

去る2024.12.2日(月)新宿の「遊山 新宿店」で関東地区在住者の8名の内、5名が参加して開催しました。

当日は、2024.10.15日(火)北海道の小金井湯温泉「湯元 小金湯」で開催の様子や9月22日に突然亡くなった土居 勉君の訃報が話題となりましたが、楽しいひと時でした。(首藤 真史)



新役員紹介

佐々木 明 (機s45)

出身は沙流郡門別町(現日高町)富川です。

中学二年の時の担任に進路相談したところ、大学に行かないなら、苦工機械科が良いぞといわれ、進路が決まり目指しました。

後からわかったことですが、担任の上坂先生は苦工機械科卒業の先輩でした。

前回役員を務めている時に、腎臓の難病と告げられ辞することになりましたが、今回クラスメイトの福澤君から役員数が急減して厳しい状況なので戻って欲しいと誘われ、病状も小康状態であることからお手伝いさせて頂くことになりました。

ブランクがあって浦島太郎状態ですが、役員皆様のご協力を頂きながら、微力ですが関東六華会運営のために尽力させて頂きますので、よろしくお願い致します。

千葉 辰夫 (建s44)

出身地は現在の北広島市です。

小学高学年の頃から建築に興味を持ち、当校に入学しました。憧れの東京の設計事務所に就職し、念願の一級建築士の資格を得ました。その流れの中で施工も覚え、現在は設計や施工の生業に携わっております。現在も現役で、顧問で2社に所属し、自分でも仕事しております。

趣味は広く、家庭菜園(会長)、料理、カラオケ、模型製作、沖釣り、ゴルフ(会長)、映画鑑賞、忙しい毎日を過ごしております。この度、幹事(組織)を仰せつかり、微力ながら六華会の発展のために尽くして行きたいと思っております。



三上 純昭 (土s49)

出身地は苫小牧市です。

今も思い出されますが、私の高校生活はクラブ活動が中心だったような気がします。中1苫小牧和光中にて、夏まで兄がいた野球部。秋からスピードスケート部に入部しました。

福井先生という経験者が赴任されており、この部が強化されて行きました。先にお亡くなりになった、鈴木恵一さんを指導した方でもあります。

1年生の時は結構頑張り、地域の学年別の大会にて優勝したりもしました。中2・中3はさっぱりです。入賞する程度です。高校でも悪い癖が出ました。高1は道大会にて1万m 5位、5000m 3位とかなりの好成績でした。インターハイにも選ばれ、日光の1万mにて5位に入賞しました。

過日インターハイのネット記録を追ったところ、苦工が芝工と記載されていました。当時の書き間違いかと思いますが残念です。その後、法政から声がかかり大学に進学しました。

ここでも大学2年で東京都から国体に出場され、1万mで6位に入賞しました。

いまさらですが最初頑張り、学年が上がると手抜きする癖に気づきました。社会人になってからはそれがないように努めています。

この度、幹事(会計補佐)を引き受けることになりました。短期的なものになるかと思いますが、よろしくお願い致します。



苦工同窓会支部「関東六華会」

令和7年度

総会・懇親会開催のご案内

開催日時 2025年6月21日(土)

午前11時30分～

(受付 11:00～)

開催会場 銀座ライオン七丁目店6階

銀座クラシックホール

“母校を想い、さらなる絆を”

<https://tomako.org>

編集後記:コロナ禍の影響で令和元年以来、5年振りの役員改選があり新体制でスタートしました。登録会員数も減少の一途をたどり厳しい環境下にありますが、苦工愛で「会員が集まりやすい同窓会」を目指し、前に進んで行きますので、引き続きよろしくお願い致します。